ゆい・まーる

★VOL６　令和２年１１月５日発行

絵本の楽しさをおすそ分け

■「あかいけいと」
佐々木マキ／作

ふしぎの世界に誘われ、形を想像して遊ぶ作品。●赤い毛糸を見つけた女の子が毛糸を巻き取っていくと、毛糸が次々にいろいろな形を作ります。イメージしやすいものからちょっと考えるものへと変化し、ページめくりが楽しくなります。佐々木マキさん独特の絵がピッタリ！●２歳くらいから。小さなサイズなので、ページ全体が目に入ります。●色で遊べる**「あおいともだち」**もあります。

■「パンダ オリンピックたいそう」
いりやまさとし／作

パンダのかわいいしぐさと体操遊びを組み合わせた人気シリーズ５作目。●オリンピックの競技に合わせたパンダの愛嬌あるしぐさには、子どもたちが思わずマネをしてしまう魅力があります。絵、文、サイズなど全体にわたって絶妙のデザインです。●同シリーズには**「ともだちたいそう」「なりきりたいそう」「おやこたいそう」「かぞえたいそう」**があり、親子で遊べます。●１歳後半から。

■「こんなかおしてあいうえお」
二歩（にほ）／作

言葉遊びとまねっこ遊びの両方をたっぷり楽しめます。●最初の言葉は「あかるいあさひだ　あ！」。これだけでは何がおもしろいのか分かりませんが、絵本のページをめくると一目瞭然。左のページに短い文と絵、右のページに愉快な表情の顔の絵。〈くちを おもいきり ひらいて〉などのアドバイスが付き、顔をまねっこして遊びます。●〈あ〉から〈ん〉までたっぷり楽しめ、あ行など行が終わるたびにおまけのページがあり、満足度の高い内容です。同じ作者の**「ことばサーカス」**も言葉遊びがいっぱい。●どちらも３歳くらいから。

■「ばんそうこうくださいな」
矢野アケミ／作

アイデアの良さが子どもに受けます。小さなキズが日常茶飯事の子どもには身近に感じられる作品。●ひざをすりむいてお母さんにばんそうこうを貼ってもらったうみちゃんは、痛い痛いのが飛んでいきました。そして、うみちゃんはい

いことを思いつき、〈ばんそうこ屋〉さんを始めます。●いろいろな動物がやってきます。ばんそうこうを貼ってもらった動物たちの表情が、ページをめくる楽しさにつながります。●最後のページに残る余韻がステキです。●２歳半くらいから。

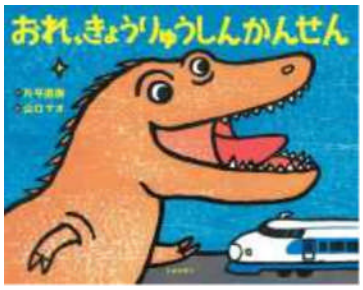
■「ひみつがあります」

布川愛子／作

動物たちの楽しい〈ひみつ〉がいっぱい！●森で暮らす７種類の動物たちにはひみつがあります。●それぞれ４ページの短いお話にして、１話ごとに明かされるひみつの楽しさ・おもしろさは格別です。ひみつを描く絵がとても細やかでていねいです。最後にみんな勢揃いして心地よい時間を過ごす安心感もあります。●親子で楽しめる作品、４歳くらいから。

■「おれ、きょうりゅうしんかんせん」

片平直樹／作　山口マオ／絵



いくつかの勘違いが生み出す笑える世界は、文句なしのおもしろさ！●夜の散歩が好きな恐竜のティラノサウルスがしくしく泣いている新幹線に出合います。泣いている理由は、古い型式で鼻が短いので走れないからだとか。そこに１つ目の勘違いが生まれ、恐竜の頭を持つ鼻の長い新幹線に変身！すると、これが大人気となり、新幹線は満足し、恐竜は戸惑いつつも人気者になるとけっこう気分が高まります。●そこに２つ目の勘違いが起き…。●文と絵が一体となり、ナンセンスな勘違いが続き、最初から最後までとにかく楽しく笑えます。３歳くらいから。

■「ごめんなさい！だいじょうぶ！」

ルイス・スロボドキン／作

いつの時代にも通じる当たり前のことを温かな絵と文で表現しています。６０年前の作品ですが、柔らかな色づかいと軽いタッチの絵は、現代にも通じます。●物語は、〈ごめんなさい〉が言えない４歳の男の子／ウィリーがごく自然に〈ごめんなさい〉〈だいじょうぶ〉を言えるようになるまでを描いています。●古き良き時代のアメリカなので、現代とは時代背景が違いますが、絵本のテーマは、時を超えて今に続いています。●３歳くらいから。

■「ねこはるすばん」

町田尚子／作

いかにもネコ！を満喫できます。ネコを飼っている子なら、しぐさや表情にうっとりするかも。●家族が外出している間、ネコはいったい何をしているの？を絵本にした作品。とても人間くさい（？）ネコの過ごし方を楽しめます。●表紙から物語が始まり、最後のページで家ネコに戻るという落差も楽しい仕掛け。●３歳くらいから。

∞∞∞　ロビーで展示している
「音楽がテーマ」の絵本を紹介　∞∞∞

- **「ドレミファどうぶつコンサート」**
  二宮由紀子／文　みやざきひろかず／絵
- **「チェロの木」**いせひでこ／作
- **「１０００の風　１０００のチェロ」**
  いせひでこ／作
- **「せかいいちゆうめいなねこフレッド」**
  ポージー・シモンズ／作
- **「はじまりのひ」**ボブ・ディラン／作
- **「ベンのトランペット」**Ｒ．イザドラ

本との出会いを ボーイズ＆ガールズに

■「はりねずみともぐらのふうせんりょこう」

アリソン・アトリー／作

ほのぼのとして心温かくなる作品集。●著者紹介には１８８４年、イギリスの古い農場に生まれ、広い野原や森で小動物とともにすごした少女時代の体験をもとに、多くの物語を書いたとあります。●５０年以上前の３つの短編が収められ、のねずみやはりねずみ、もぐら、うさぎ、めんどりなど小さな動物たちが紡ぎ出す、ゆかいで楽しいお話ばかり。３話目の終わりが最初の著者紹介につながります。●幼児には読み聞かせ、ひとり読みなら小学校低学年に。

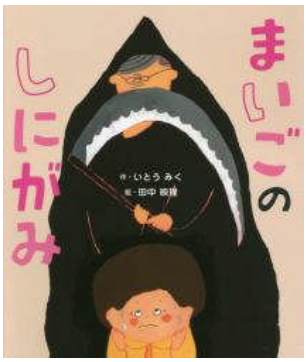
■「本屋のミミ、おでかけする！」

森環／作

好きなことが増えると、喜びがあふれ、勇気がわいてくる…を伝えてくれる作品。●おじいさんとミミが営む本屋さんは、本を傷めないよう、日の光が入らない地下にあります。●ミミは本が大好きで、お店の本のことなら何でも知っていますが、本のこと以外は苦手で、外に出るのも怖いのです。●物語は、ミミが勇気をふるって外に出て、新しい世界を開き、好きなことを始めるまでを描いています。キーワードは、お店の壁に飾っている絵や版画。●作者は釧路市生まれ。独学で鉛筆画を学んだ作家です。生き生きとした絵がふんだんに使われているので、読みやすさは抜群。●小学校低中学年に。

■「まいごのしにがみ」

いとうみく／作　田中映理／絵



やさしさって大切なんだ！がメッセージ。●主人公のぼくは、公園で死に神から声をかけられ、あの世へ連れていく人の家が分からないからと、道案内を頼まれます。●死に神は花が好きで、情にもろい性格なので、死に神には向いていません…死に神とぼくの奇妙なつながりは２０年後に再会を果たしたときにハッピーエンドを迎えます。●自分の良いところを伸ばすことが幸せにつながることをそっと教えてくれます。●小学校低学年に。

■「父さんのことば」

パトリシア・マクラクラン／作

言葉と音楽の力が心にじわっと染み入る作品。●交通事故で、突然お父さんを失ったフィオナー家が、お父さんから聞いた言葉や歌、関わりのあった人たちから聞いたお父さんの思い出や言葉を受け止め、お父さんの存在を身近に感じることで悲しみの淵から抜け、笑顔を取り戻す物語です。●作中物語として、フィオナー家がドッグシェルターで出合ったエマという心にキズ

を負った犬の再生もフィオナー家の再生と一緒に語られています。●もう一つ大事な役割を果たしているのが〈音楽〉。お父さんがいつも口ずさんでいた歌が物語の最後に大きな喜び、感動に結びつきます。●小学校中高学年に。●中学生には、同じ作者の名作**「のっぽのサラ」「草原のサラ」**を。

■「ライラックのワンピース」

小川雅子／作　めばち／絵

第９回ポプラズッコケ文学新人賞大賞受賞作で、作者のデビュー作。●すご腕技術でクリーニング店を営むおじいちゃんと仕立て・裁縫名人のおばあちゃん…主人公のぼく（トモ：小学校６年生）は、急死したおばあちゃんから裁縫を教わった〈裁縫少年〉で、サッカーと裁縫の両方をかけ持ちしています。●物語の中心は、ハーブ園で出合った同年齢の少女リラちゃんが着ている少し窮屈なワンピースを仕立て直すこと。その仕立て直しには、リラちゃんの大切な思い出やおじいちゃん、おばあちゃんの生き方、トモが裁縫を始めたきっかけ、サッカーと裁縫のどちらかをあきらめるのかなど、さまざまな要素がぎっしり詰まっています。●細かなできごとがしっかりつながり、トモとリラちゃんが最後に見つけた思いと答えはさわやかです。●小学校高学年から中学生に。

■「貸出禁止の本をすくえ」

アラン・グラッツ／作

貸出禁止にされた本を救う活動を通して、主人公が成長していく物語。●訳者あとがきでは、この作品のことを「内気で、友だちも少なく、唯一の楽しみは本を読むことという４年生の少女エイミー・アン。家でも学校でも、いいたいこともいえずに、おとなしくひっそりとくらしていました。ところがある日、学校の図書室で、大好きな『クローディアの秘密』が貸出禁止になってしまったのをきっかけに、愛する本をすくおうと立ちあがります」と紹介。●本を救うアイデアの斬新さ、エイミー・アンの気持ちを代弁する言葉の使い方が変わっていくさま、自ら動くことで友だちの輪が広がっていく場面展開にはワクワクします。●読んだ後に表紙を見るとなるほどとうなずけます。●小学校高学年から中学生、おとなにも。

■「おじいちゃんと最後の旅」

ウルフ・スタルク／作

スウェーデンの人気児童文学作家／スタルク最後の作品。●頑固でまわりの人たちとうまく付きあえず、乱暴な言葉を使ってしまうおじいちゃんとぼくが主人公。●おじいちゃんは、亡くなった最愛のおばあちゃんにいつも乱暴な言葉で接してしたことを後悔しています。死期を間近に感じた今、天国で会うおばあちゃんに寄り添い、きちんとした言葉で感謝の気持ちを伝えようとして、ぼくと一緒に冒険にトライします。●この物語には、おじいちゃんと折り合いの悪いぼくのお父さんとの気質や性格の違いも描かれ、言葉や態度でうまく自分の気持ちを伝えることの難しさ、親子だからこそのせつなさも子どもに分かる文で表現しています。加えて、ユーモアもあり、読み応えがあります。●物語の中盤から後半にかけては、おじいちゃんの変化に心が引きつけられます。最後の２ページはとても印象的。●小学校高学年から中学生、おとなにも。●常呂図書館には、スタルクの主な作品**「シロクマたちのダンス」「夜行バスにのって」**など２０冊あります。どれもオススメです。